93

アメリカでの居住に想像以上のハードル

コアラ社長の

夢の街マイアミ不動産投資事情

すことが条件となっているのだ。

11年に筆者が取得したビザはL1ビザであり、日本の会社の子会社として米国内に新規に会社を設立し、その責任者として駐在させるという方法である。一般的にグリーンカード取得への近道といわれるビザであり、大企業の現地法人への出向による駐在員はこの種類である。

しかし、近年このL1ビザの所得が困難となっており、米国内に留学経験がありMBAも取得している上場企業の役員が却下されたという事例も出ている。基本的に3年間のビザであるが、2年目に突入する際には更新の審査がある。これも近年、2年目の更新が不許可となるケースが全米で頻繁に起こっている。

今回、筆者が申請準備に入っているのはE2ビザという投資家ビザである。

日本人なら「寿司レストラン経営」？

日本人は寿司レストランを経営することが一番ビザを取得しやすいといわれており、そのために32万ドルを投下してマイアミ北部のサーフサイドエリアに操業中の寿司レストランを購入した。運転資金や弁護士費用（会社売買、ビジネスプラン作成、ビザ申請）を含めると40万ドルを超える投資である。もちろん審査次第であるが14年、マイアミ市が推奨するEB－5（ダイレクトにグリーンカードを取得できる時限立法）が登場し50万ドルの投下資本でいきなり永住権を取得する方法もある。

しかし、EB－5の場合、永住権の取得までおよそ1年を要すると言われており、オーストラリアのように預金するだけではなく実際にプロジェクトに投資しなくてはならず、投下資本が全損する可能性もないわけではない。リスクも高い方法なのである。来週はアメリカ領事館での面接に備えて、マイアミから移民弁護士が訪日する予定だ。God Bless!

（小原隆浩）

隔週掲載

購入した寿司レストラン